

「モビリティサービスを通じて、人々の暮らしをもっと豊かにすること」をミッションに掲げているMONET Technologies株式会社。同社は、モビリティの新たな力を引き出し、社会課題の解決と新たな価値を創り出す活動として、現在104の自治体に対して、さまざまな実証実験や実装運行を行っています。同社の田中直樹氏に、AIオンデマンド・医療・行政のモビリティにおける課題やデータを用いた現状把握・課題解決・MaaSの価値証明について解説して頂きました。

point モバイルクリニックで診察患者数が5倍に！

同社は、さまざまなサービスを車両に載せるオンデマンドサービスやデータ解析サービスなどを主な事業として展開していますが、将来的に自動運転を活用したAutono-MaaS事業も視野に入れて、新しい価値創造を検討しています。

MaaSは、オンデマンドモビリティサービスのほか、医療や行政の分野でサービスを提供。自動運転については、MaaSとの連携やサービス展開を見据え、東広島や東京・お台場で実証運行を実施。また親会社のソフトバンクやトヨタグループとも、データ分析からMaaSの価値を証明しているところ。現在までに北海道から九州まで、同社のサービスを導入している自治体は105ほどあります。

MaaS (Mobility as a Service)	自動運転	データビジネス
「モビリティ」と「サービス」を組み合わせた課題解決 <主な事例> ■ オンデマンドモビリティサービス ■ 医療サービス ■ 行政サービス	自動運転社会を見据えた実証運行 <主な事例> ■ 東広島 自動運転実証 ■ 竹芝 技術実証 ■ 東京臨海副都心 サービス	データ分析から見える事業の価値証明 <主な事例> ■ MaaS事業における需要予測 ■ 人流・車流から見る運行シミュレーション

医療MaaSで解決したい社会課題としては、70歳以上の高齢者世帯が国内に21%もあり、病院に行くにも付き添う家族の負担が増え、公共交通機関での通院継続が困難になっていることが挙げられます。そのような状況で在宅医療も増え、医師の移動時間が問題になっています。限られた医療資源を守るために、モビリティの観点で、同社は2019年12月から長野県伊那市で

モバイルクリニック事業を開始。これは看護師が患者宅に専用車両で出向き、病院の医師がネットを通じてオンライン診療を行うというモデルです。同社では、運行計画や走行ルートを確認するドライバーアプリとタブレットのほか、予約状況や運行履歴などを確認できる管理者用Webサイト、配車の予約や患者・医療従事者の情報を確認できる予約管理システムなどを用意。これにより、従来までの医療拘束時間が57分から15分に劇的に短縮され、診察患者数も5倍に増えました。

point 鳥羽市の最新MaaS～僻地診療所をモバイルクリニックで代替

鳥羽市は三重県南部の志摩半島に位置する風光明媚な観光地で離島を多く抱えています。同地域の高齢化率は41%超に上り、少ない医師が広範囲で対応できる体制づくりが急務でした。そこで同市では令和2年より離島でのオンライン診断を開始。令和5年より本土側でも遠隔診断を拡大させ、医療MaaS車両を配備しました。



鳥羽市の医療MaaSは、従来の僻地診療所を前出のモバイルクリニックで代替するものになっています。医療の提供のみならず、ヒトの移動にも対応し、マルチタスクで運用している点がポイント。車両も自由にレイアウトできるように工夫されています。また、車両は災害時の対応も可能です。被災した診療所で診察や患者待合室としても利用できます。ベッドや車いすスペースを設けたユニバーサルサービス車両も開発しています。高齢化社会が進む中で、当社は今後も地域医療を支援する取り組みを推進していきます。

問合せ先

一般社団法人SDGsデジタル社会推進機構(ODS)

info@ods.or.jp

※お問い合わせの際には「ウェビナー通信を見た」とお伝えください



MONET Technologies
株式会社の取り組みを見る

モビリティサービスを利用した地域課題の解決 ～鳥羽市での医療MaaS事例～



MONET Technologies株式会社
推進4課 課長
田中 直樹氏

2019年からMONET Technologies株式会社にて、関西・北信越自治体向けに課題をヒアリングしMaaS提案を実施。営業推進部門を経て、2024年から東海地区にてMaaSを提案中。